

第3回 大月短期大学基本問題審議会

日時: 令和7年8月29日(金) 13時30から14時45分

会場: 大月市役所 2階 市長室

出席者:

審議会 委員	安藤委員、大霜委員、相馬委員、竹下委員、永久委員、奈良委員、日野田委員 (入倉委員は欠席)
大 月 市 (事務局)	坂本総務部長、(以下企画財政課) 杉本課長、三木主幹、紫村主事 (以下短大事務局) 小川事務局長

本日の次第

1. 開会

2. 議事

(1) 中間答申(案)について

(2) その他

3. 閉会

1. 開会

・三木主幹より開会が宣言された。

2. 議事

(1) 中間答申(案)について

(2) その他

本審議会条例第6条第1項の規定により、会長が議長になるとされているので、ここからは大霜委員長により議事進行された。

以下より、議事

(1) 中間答申(案)についての説明

委員長	当初は来年の1月から2月を目指して最終答申を出すという話でありましたが、出来ることは早くやった方が良いとの委員からのご発言がありました。そこで事務局の方で第5回までのタイムスケジュールを決めていただき、そこまでに何らかの結論を得るような形で進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。
事務局	中間答申(案)について説明。
委員長	ありがとうございました。案についてご説明をいただきました。何かご質疑があれば各委員からよろしくお願いします。
委員	提言の中間答申(案)の順番が1から4であるが、こうなった順番がどうなのかと思いました。まず、最初に危機感の共有があって、新しい大学の魅力づくりを目指して、それを実行するために、経営責任の明確化や教授会のあり方が問われるのではないかと考えたのですが、なぜこの順番になのかということが一つ疑問に思いました。それからもう一点繰出金のあり方を見直すとなりますが、見直すということは現在の繰出金のあり方の基準があると思いますがそこを教えてください。
事務局	順番について、こだわりはありませんが、前回特に一番初めにやらなければならないことが、経営責任の明確化ではないのかというような論調であったと私も思ったので1番にさせていただきました。要は何をやっても、まずそこをやらないといけないのではないかとということで、1番に持ってきた次第であります。2番以降は特段どれという感覚を持っていませんので、今のご意見いただいて特に異論がなければ、あくまで皆様のご意見の集大成であるので、他に異論がなければそういった形に変えさせていただきます。 繰出金については正直に申し上げますと、短大で足りない部分やこれやりたいというときに私どもで審議をさせていただいて出しているというだけでありますが、この見直しについての具体案はございません。ただ、ここが経営責任の明確化をするというところにリンクしてくるのではないかと考えています。それこそ学内の優先順位をつけるなどのどれが一番重要で大学にとって必要だというところをディスカッションしてやりたいと思います。実際の繰出金のあり方については現状こうしようというものはありませんが、経営責任の明確化を先に行い、それに付随するものだと思っています。
委員長	よろしいでしょうか。
委員	相手を説得するのに最初に危機感の共有の期間があって、大学の魅力

	づくりがあって、そのためにそれを実行するためという方が説得力あるかなというふうに思いました。危機感の共有も財政面をかなり優先して語られていますが、それ以外の部分も語った方がいいと思いました。最初に話が出た4年連続で定員割れを起きているということの危機感を教授に持ってもらうことが必要であると思いました。市が大学の財政を支えているが、市内に大学があることで市に活性化を与えているというその役割を明確にしていくことの方がいいと私自身思いました。
委員長	ありがとうございます。
委員	全く同感です。順番としては3→4→1→2だと思います。それは現状認識から始まって新しく目的とか目標とかを作り上げて設定して、それを実行するための手段がその最後に来るという順番でそちらの方が文脈的に理解しやすいだろうと思います。 あと3番目の危機感の共有に関してですが、提言のところに繰出金どうのこうのと書いてありますが、これは手段であって認識は危機感の共有を誰とするのかというのが書いてないです。 現場の人たちも市役所も市民も対象になってきます。だからその共有を誰とどのようにしてするのかというところが、まず、繰出金云々の前にきちんと提言として書かれるべきだろうと思います。繰出金の話が責任の明確化に入ってくるのかはわかりませんが、手段としては個別具体的な話になってくると思います。
委員長	ありがとうございます。他どうでしょうか。
委員	他の委員がおっしゃるとおり、3→4→1→2がいいと思います。私が言うのは憚られるところもあるが、もう閉めるかどうかの瀬戸際だと思っています。大阪府の公立高校も30校閉めるという話が出ていますが、普通に考えれば65校を閉めないとダメです。普通に人口から逆算すればそうなります。現場経験がある方ならわかると思いますが、1学年6クラスを切ってしまうと公立高校の場合が、先生方の負担が増えすぎてしまいます。維持しろという意見を言う人もいますが、先生方の勤務を考えたら規模が大事になってきます。そうなったときに、本気で残すのか残さないのかを考える必要があります。例えば大月市の財政的に歳入が150億円程度で、赤字補填として2億円から3億円仮にするとしたら、人口が2万人なので市民一人当たり1万円から2万円をみんなで毎年払う気があるのかということ、それをちゃんとやった方がいいと思います。気づいたらやっけて、気づいたら残っていて、気づいたら補填しているというのは、特に教育者はリベラリストが多いはずですので、政府に依存する経営をやっていること自身が教授会としても崩壊していると思います。厳しい言い方をすれ

	ば寄生虫であります。死に物狂いで学生を集めてくるとか、市のために貢献するとかそこまでやって来なかったらやめた方がいいと思います。それが生徒の前に立つという学生の前でちゃんと授業することが、教員は背中で語る仕事であるので、そのくらいの覚悟が教授会の皆様にあるのかということ子ども前で仕事をする以上はそのくらいの覚悟が必要だと思っています。そういうところの本質の議論に立ち返った方がいいと思います。
委員長	ありがとうございます。
委員	今の議論の流れで順番はそのとおりだと思います。前回は発言しましたが、今回でいうと新しい教育プログラムづくりのところに關係してきますが、今の体制を維持していたらおそらく同じ未来が見えてきます。それを変えていくのにこういう新しい意思決定の仕組みがないと出来ないが、それを前提に新しい教育プログラムというところをかなり注視しないといけないとかと思います。前回は質問をしたが、経済科単科を維持していくのか、それを変えていく必要があるのかというところが、今回の危機感の共有、なぜ学生が集まらない状況になっているのかというところの分析、その決定方針を前回の議論ですと経営の話が出てきているのですが、教育の中身の質に魅力を作っていくか、やはり人口が減っていく中で学生が集まりにくいという状況というサイクルをどういうふうに変えていくのかというところの根本にあるのが、経営面だけではなく、高校生に見えるのは教育プログラムの内容を見て入学をするので、そこをどう変えていくのか、そのためにはどういう意思決定や決定状況にしていけないのか短大が成り立たないのかと思います。現在の経営について、理事長学長体制や教授会が諮問機関となった場合に意思決定機関はどこが行うのかということを想定しながら答申に組み込んでいく必要があると思います。
委員長	ありがとうございます。
委員	委員の話は毎回いい話を聞けたと思っていますし、出来ればうちの会社でもセミナーを開いていただいとお話をさせていただけるといいと余談ですが思いました。 この提言を持って、スピード感を持ってすぐにでも方向を決めていくということが一番大事なのかと思います。どうしても時間がかかってしまうと思いますが、18歳人口は絶対に増えないことがわかっているので、1年でも2年でも遅くなるだけ不利になるというところがあるので、本当に1日でも早く色々なことを決めていただきたいと感じています。
委員	言われているとおりだと思いますが、危機感の共有というところで、今短

	大への繰出金は1年間で1億7千万円という額が市の税金から出ています。
事務局	6年度決算で行くと1億7千5百万円が一般会計繰入金となっており、そのうち2千6百万円程度が高等教育無償化事業として国の制度として減免をしていてその分は国から補填されているため、実質的な運営には1億5千万円程度が市から出ています。
委員	今後もこの支出が続くとしたら市の財政的に可能であるのか。
事務局	現時点では何とも言えませんが、普通交付税で入ってくる部分も鑑みて言うと、逆にそのくらいであるのであればいいのですが、当然、人件費の高騰や経費が上がってくると思いますので、やはり学生の確保は基本的に重要になってきます。
委員	非常に厳しいということがわかりました。学生の確保については、今県外の高校を含めて高校訪問を行っています、色々な状況をみれば各大学とも全部が同じようなことを行っているのではないかと思います。何を強みとして募集をかけていくのかをはっきりさせて行かなければいけないと思います。
委員長	ありがとうございます。
委員	中間答申をどこまで作り込むのかわかりませんが、最終的にどこまで作り込むのかによって色々な書きぶりが変わってくると思います。危機感の共有として委員がおっしゃったとおり、一人あたりいくら支払っているのか、大月市立であるので、市で行っているということは、市民がそれに対してどれだけ支払ってもいいというような、それだけの見返りがあるかどうかというところが、危機感の共有の肝になるだろうと思っています。短大がなければ1億5千万円を違うことに使えるという話になってくるなかで、短大を持っている理由はなにか、正当性はなにかというところを市民に問うような危機感の共有も必要と思います。 あと、例えば、経営責任の明確化もきっちりと具体的なところまで項目を書き込んでいくのか。経営者と理事長と学長というものをどのように捉えていくのかということは簡単な話ではないです。学長が教学の方を責任者として決めていくと言っても、教学は商品であるので、商品は経営側が売らなければならないです。その商品が悪かったら売れないです。そうするとここは一体となって作れるような体制というものが重要になってきます。学長も理事長も学者から出したらたいしたものは作れないと思います。片方は学者でもいいと思いますが、片方は経営者の必要があります。その二人が対立するのではなく、一つのものを作っていくような体制でないとなかなかできないので、そのためには人材を選ばなければいけないとい

	うややこしい話になってきます。 魅力づくりについても当たり前のことで差別化をしないけれども、ここに書かれていることはどこでもやっているような話であるので、違う差別化をしなければならないです。一例として岐阜県の飛騨市でCoIUというものを作るとか作らないとかでホームページまで出来ています。このくらい差別化するような努力をしないと生き残れないです。生き残れなければやめるしかないです。中間答申の構造的にはこれでいいと思いますが、そのあとのどこまで書き込むのかというのが極めて重要なポイントでこのくらいで終わっていたら多分なにも進まないと思います。具体的なところまで誰がどのようにしていくかという体制も必要だと思います。
委員長	ありがとうございます。
事務局	委員長がおっしゃったとおり、今回は市長が同席をしています。本来答申する相手方がいるということはあまりないことですが、ただ、前回終わった会議のことも報告をさせていただきました。そしてこれを作るにあたって、当然市長と相談をしております。その中で、やはり委員がおっしゃったとおり、例えば独法化したとして、その後の人選が重要だということとか、魅力づくりは今まで編入としてやってきたが、違うことをもう1個やるとしたらダブルスタンダードになるのではないかと、あるいは一点突破で何かをやった方がいいのではないかと、そういった議論を深く交わす中で、やはり市長が生に聞きたい、ディスカッションしたいといったのが趣旨で市長に立ち会っていただいたところでございます。小林市長は打たれ強いので強い声も大丈夫だと思います。聞く気満々でございますので、ぜひ厳しいご意見でも、逆に言うところちもざっくばらんに話をさせていただいて、悩んでいることを市長の心情を吐露していただくような審議会になったら、もしかしたらいいのではと思い、あえて市長を立ち会っていただいたところでございます。そんなことも少しお時間の許す限りディスカッションをしていただけたらと思っております。以上でございます。
委員長	中間答申(案)について各委員から厳しい意見も含めて、それは将来、スピード感を持ってこれに対処しなければならないという危機感の裏返しとして話があったと思っております。今事務局からありましたように、市長がせっかく来ておられますので、答申案というよりも、フリーディスカッションということで意見交換が出来ればと思いますので、そのような進捗で進めさせていただきます。 一点だけ中間答申が4点だけあって、なぜ定員が200人で135人になってしまっているのかということで4年連続定員割れをしているのは多分公立学校含めて、日本全体が少子化という問題から大月市も例外ではない

	です。過日の審議会でも学校が潰れる前に市だって消滅してしまうのではないかなというような可能性があるという発言がありました。ただ、この学校は、今もいい学校で将来にわたっても市民が誇れるような学校に育ててほしいというのが願いだらうと思っておりますので、現行4点の中間答申(案)が出ましたが、今でも出来ることあるのではないかと、独法化するには時間がかかる云々ということですが、今でも教授会と行政、あるいは学校と行政がどのような意思決定を持ってそれを決定してそれを具体化していくのかということは、人やお金でなくても仕組みを変えて、それが危機感の共有にということになっていくと思います。それは時間をかけなくてもできるものもあると思います。ただ、例えば予算であればコンサルを雇って分析をして方針を明確にするためにはお金がかかるという問題が出てくると思います。今出来ることあるのではないかと思います。教授会というものも前回学長が言っていたように話をするとそこは触れてはいけない場所であるという感じの意見もありましたので、その辺も含めてスピード感を持って事務局の総意と市長の総意を持って、今日出てこられていると思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見が大月短大の将来に向けての布石になればと思っております。
小林市長	前回の議事録を読ませていただきました。議事録を読むのとその場にいるのではだいぶ肌感覚が違ったのだらうと思いました。今日の話聞いて、最初に危機感の共有から始まってその危機感をどのように伝えるのかということの大切さを改めて思いました。委員の言った、続けるには1人あたり1万円、2万円を市民が払うこと、教育者は背中で語るものでその覚悟を持って教育をしなければならないということを聞いたときに、この答申の中で、今度は自分がそれを伝えなければいけないと思いました。最初に教授会、また学長にそれを伝えなければいけないと聞いていて思いました。そしたら委員がこれをどこまで作り込むのか、そこまでしっかり書いた方がいいだらうというご提案として受け止めましたので、そこはぜひ骨子の部分を書いて、尚且つ覚悟を持って、教授会、学長、皆様にお伝えする必要があるということが大前提でのスタートと身を持って感じました。その部分は本日議論いただき本当にありがたいと思いました。やはり佐藤先生が前回のときに言っていた、どうやって実行していくというその部分が短大の先生と学長の中でも一番問題だという認識を持っているが、それをどう担保するのかというところが非常に難しいと感じました。今の話の中に理事長と学長がいて、学長が商品を作って、理事長が経営責任で売るところに人材が必要だと、その人材をどのように確保したらいいのかというところは、自分もみんなもどうやっていいのかさがさっぱりま

	だ見えてこないところでした。そこを自分のネットワークも活用しながら、委員の皆様のネットワークであったり、こういう人がいるという情報だったりをしていただければと思います。今回皆様にお聞きしたいのは、ここに AI や外国人材と書いてあるが、先ほど飛驒のCoIUという話がありましたが、その魅力をどういうふうに作るのか、例えば委員が学長をやられた場合には、英語学習で特化して進めることができると思います。その先生によって、学校の魅力というのは、変わってしまうのではないかと思います。だから、やることと実行する人を両方セットで考えていかないといけなくて、それをどういうふうに教授会の人たちに納得してもらうのか、そこが非常に難しいと思ったところです、何かそこら辺についてまたご意見やアドバイスいただければありがたいと思いました。
委員	まさにそれで今日々奮闘しているわけではありますが、まずやらなければいけないことは見せ方からだと思います。同じ商品でも商品の中身を変えるのは大変で時間がかかるので、私は最初にラッピングを変えるということを手掛けました。3年連続で入学者数が定員に行かずにそれが赤字の理由になっていたの、とにかく血を止めなければと思いつたことが見せ方を変えたことです。どういうふうに見せ方を変えたかと言ったら、ホームページとか学校案内とか、それをどのようにしたらインパクトがあるかということと、もう一つ気にしたのは写真の使い方とかあるいは学校案内にストーリーがあるかどうかとか、それまではカタログみたいでした。カタログではなくてストーリーを見せないと駄目ということを意識しました。 あと営業も変えました。今まで何をやってきたかという空中戦でしかなかったです。要はいろいろ宣伝して PR して来てほしいということをやっていましたが、それでは来るわけないので、1校1校回るようにして、要は地上戦をやるようにしました。それには人材が必要なので、営業のプロとして信頼できる人に来てもらいました。そう簡単にはいかずに、反発があって、その中で揉めましたが、数字が出てくると、それが正しいやり方だったというふうに納得してくるというような形です。 次に取り組まなければいけないのはやはり内容です。カリキュラムは、人によって属人的に決まっていくようなものですので、思うようにはいかない。でも、思うようにいかないけれども、その教授のその専門というのも若干いろいろ工夫してもらって、学校としてのその存在価値みたいなものをストーリーとして語れるような、そういったカリキュラムにちゃんとなるように教授の人たちと議論しながら流れができるようにしていきました。けどどうしてもそれにはまらない人たちがいるので、それをどうするかというのは時間がかかるが、そこは人を変えていかなければいけない。どこかか

	らかリクルートしてこなればいけないというようなことにもなるし、その間の財務的な胆力があるかどうかというせめぎ合いをしなければいけない。幸いなことに私がやっているところでは中高が極めて経営が良いので、そこを少し我慢してもらってというようなことをやって凌いでもらっていますが、それができない場合にはなかなか大変だろうなというふうに思います。ここは市立なので、そこら辺は心配ないにしても、そうしたことを戦略的に考えられる、実行していける理事長と学長が必要で、ここの人をどうするかというのは本当に市長がおっしゃったように、なかなか難しいところだと思います。一時的にですけど、リクテーターを作らなければいけないです。学校というと民主主義みたいなこと言いますが、民主主義ではないです。これで民主主義的に人を選んでいいが、そこで一度権限があったらその人にきっちりと責任を持ってやってもらうというような体制が期間限定でなされなければ改革はできないです。私も道半ばで、最初の年に入学者数が定員を超えました。さらに今年はさらにそれを超えるような状況になるというふうに確信しています。そうした報告も受けています。少子化とか何かを理由にはいけないです。
委員	うちも県立大学で2030年2040年くらいの人口数の中で、どうやって大学を残していくのかという中で、実際に今、学部学科の再編の渦中にいます。まさにどれだけの人が保守派でやってどれだけの人が改革をしていくのかというところにいます。新しいものを作ってもどうやってそういうシフトしなければいけないということをやっていかないと、残っている人間がこれを残していきたい、それを残していくだけだとやはり対外的にはもしかしたら魅力がないものが残ってしまうかも知れないのでやはり将来というか、大月にある短期大学というのが経済科ですが、先ほどの飛驒の話ですと飛驒はCo-イノベーションを謳っています。例えば私も最近になって徳島県に神山町に神山高専があり、結構見せ方も上手で地方にあるが、イノベーションを作るということを目的に山奥でやっています。結構、人が来ていて、そこは地域との繋がりがあって、地域でこういう企業がたくさん来ている集積地になっているところに高専を置くという意味があり、結構新しく作った高専が魅力的に見えます。地域との関係性というのが短大や大学では結構大事であります。なぜ大月にあって経済を学んで編入として入って出ていくというのも一つのシナリオだと思いますが、地域の人も学びたいとか学び直したいとか、ここにある意味考えていいのではないかなと思ひまして、3月にセミナーをやったらいろんな企業入ってきまして、スタートアップの支援や、インキュベーション的な機能を持っているような東京に近い地方誘致みたいなのところでそういう地域であるのではないかなと思ひま

	す。そういうような特性を生かすような教育を作ってなんか本当にそういう技術を学びたい所に来て、やっていくような場所に確保していきたいみたいなそういう縁もあっていいのではないかというふうにそれをやっていくのもありだと思います。本学でも喧々諤々ではありますが、教授会からの権限はまさに外したところで、法人の方に教育改革推進大学戦略室みたいなものを作って、教授会は教育を回していく、大学の戦略を作っていくのはその戦略室がやっています。本学でも、教育の面のリーダーと経営の面のリーダー両方の人が必要ではないかということやっています。そういう変えていく際に、本当に教育の質を保って魅力を作るのと、経営の視点で、財務の視点もそうですけど経営している企業として学生が入ってきて、収益反応していてマーケティングをしていかなければいけないとそういう経営を大学にしていけないと人が集まらないので、両方の観点がこの機会に議論されればと思います。佐藤先生といろいろ話をされていて、やっぱり今の教授会体制でいくと多分新しいものが作れないので、佐藤先生は中にいて、悲鳴を上げられていてその中でやっても無理ですと、それを違う権限の中で作っていけないと、多分改革ができないというふうなことを多分おっしゃっているそんな状況であると思います。
委員長	私も会議のあとに先生に会いにいきまして、報告書を読ましていただいた感想も含めて、お話したのですが、先生はこれをそのまま実行することは云々ですかと聞いたところ、実行するにもしないにも決めてくれる人がいないので、実行のしようがなく、だからそこにタイムスケジュールも書いてあったようなスケジュールを示していましたが、こういうことがあるということと言えるが、これを誰が責任を持ってやってくれるのかということを学校側からは、とても言える話ではないので、その政策決定的な意味合いでも責任を誰が取るかではなくて、誰が担ってそれを果たしていくのかということが明確にならないと難しいとおっしゃっていました。先ほども属人的な要素もある云々ということがあると思いますけど、今の段階でも、おそらく市長が今日のフリーディスカッションを持ってあの学校に話されることもあるのかもしれないですけど、最終的には行政の方で市立短期大学なので、行政の方で責任を持ってやらないと、おそらくこの学校でも持っているような、あのジレンマに陥ってしまうと思います。それは市民に対する説明責任の裏返しとしてきちんと行政はこういう思いを持っているということ伝えていくことによって少しずつ教授会を含めて、経営のあり方についても、それは逆に言うと、市民に対する説明責任の裏返しにもなるだろうというふうに思っていますので、その辺のあり方、それは戦略室を設けるのか云々ということはあるのかもしれないですけど行政側にある程度の

	主体性を持っていただいて、税金を払っている市民に対して説明する必要もあるし、知恵を投入しているという責任というのを行政として明確化しないと、おそらく何かを言っても教授会の方では、それは私達はその辺について意思を持っていないという形で終わってしまうと、なかなか前に進まないです。多分それが各委員の共通の意見ではないかというふうに勝手に思っております。
委員	教授会の説得は難しいと思います。単に1、2年の問題ではなく長い間やってきているので、しかも自分の職がかかっていると余計にそこは強いのかなと思います。だから、あの大学の魅力づくりを考えたときに、大月短期大学が持ってきた経済単科としての伝統、その強み、これは絶対抜かせないだろうと思います。ただし、経済単科でいると、やはり社会ニーズに取り残される部分があるのかと思います。 過日、新聞報道で知りましたが、上田市にある長野大学が何年か前に上田市立に変わっていて、ここでも来年度から26年度から学科を再編することです。今まで社会福祉だとか何かがあったけども、ITのことも取り入れて強制情報活動をやる学部を設けるとのことです。だから、再編しながらやっていくというふうな話を新聞で見て、ちょっとインターネットで調べてそんな動きがある中で、ここでもやはり大事にしているのは、信州上田大学というのを大事にしているそうです。そういう意味でいくと大月短大も大月学ということで学生にも、特別聴講生にも開放し、ここが大月市の市民にとっての大学の存在価値を示せる部分なのかなと思います。大月の場合に例えば地域政策とか環境問題とかを取り入れた大月学で、特にあの山林等が多いので、そういうものをどう活用していくかっていう視点も入れながらのそういう大月短大が担ってきたものを、さらにその部分を膨らませていく学科の再編でもいいというふうに僕はこれ読んで思いました。 それから、もう一つ話が変わる方向へ行きますが、経営責任の明確化ということで、理事長とあって、そうすると理事会を構成と思いましたが、そうすると、今現在ある運営審議会との関わりはどうするのか。今週も会議があったが、その辺の関わりをどうしていくのかということが頭をよぎりました。
委員	大月市も消滅可能都市になっていると思いますが、大学があるということは若い人を引き寄せる可能性がまだあります。はっきり言って普通に見ればもう無理であるが、日本中でこんなことは起こっています。少子化は言い訳の理由にはならないです。だから、逆の発想で完全に切り替えてこの街をもう一回どういうふうにデザインするのか。そのためには若い力が必要だからこの大学はいると、大学の設置の趣旨はそもそもそこからで

	地域に必要な人材を作るために作ったと、どなたかがおっしゃったみたい に、今その時代に合わなくなってきたならリデザインする必要性がありま す。それは当然自分たちの仕事は育っているかもしれないが、先生たち に理解してもらわないといけないので、市民にも広く募って説明した方が いいと思います。 うちも学校潰れかけていますが、今も何をしているのかと言うと。元々現 場の教員やっていたので、実際に授業をやっています。この前は PTA の 保護者全部集めて、全員でどういう学校を作るかというワークショップを僕 が主導でやりました。もう経営の危機になっていると伝えました。お金が 一年半で尽きてしまうということも伝えました。何とかして助けたいと言っ てくれます。学校の先生たちも本当にいい人たちばかりでやる気もあるの ですが、どこの学校もなんかトンチンカンな方向にいつも行ってしまいま す。自分のポジショントークが始まる。先生たちもそんなことを言っている 場合ではなく、もう学校潰れかけているので辞めた人はもうやめてくださ いと、でも一緒に立て直すことを経験したい人は保護者も生徒もみんなわ かっている、みんなで一緒にそれに向かって頑張りたいと、それは 腹立つことも嫌なこともあるかもしれませんが、全部オープンにして、この 前もその PTA と先生たち全員で紙飛行機のワークショップをやりました。 そうしたら今とりあえずやっちゃおうみたいな雰囲気になっていた理事会 も、潰れかけているから今まで暗かったが、半分ぐらいお笑いを飛ばしな がら、もう潰れかけているので笑うしかないみたいな感じでやっています。 だから、もうとりあえず出せるものは全部出してアイデアを出して、みんな でも意見を出している間にもしかしたらいいものが出てくるかもしれないか らということでやっている、潰れかけている学校なのに今とても明るい です。でもせっかくやるのならその方が楽しくないですか。そういう状況で あるのであれば、そういうふうなものに実はみんな惹かれて学校に来ま す。だから、うちの学校も今度学校説明会があるが、去年200人しか来 なかったのが、明日は1000人来ます。それでまさに大月市も潰れそうで あるならば、全国から潰れそうな市町村を直したい人来てくれと言ったら、 多分若い人たちが本気の子たちが来ると思います。そういうことのチャレ ンジを許してくれる市町村なんかほとんどないで、何かそういうセンターに この短大をするということを言ったら、先生たちもそれは絶対ダメとは言わ ないと思います。細かいところはみんな腹立つこととか嫌なことあるかも知 れないけども、大目標だけ決めたらいいと思います。それから責任の話と ともに徐々にやっていけばいいと思います。
委員長	ありがとうございます。

小林市長	委員が前回のときに、ホームページの１ページ目に１０文字でわかる学校の魅力がどこにも書いてないということをおっしゃっていました。今委員のお話を聞くと、大月を救う大月短大ではないが、そのような一つのワードを作って目指していくというのが大月学入門にも繋がって、それが地域と学校の繋がりにもなっていくのだらうと思いました。今回貴重なお話を聞き、議論する中で資料を作り込むためのワードがたくさん出てきているので、出来るだけ早く中間答申をまとめさせていただきたいと思いました。本日終息することは出来ないが、出来るだけ早く、色々な意見をいただいたうえで、作り込んで、次回までに正式な中間答申の格好として進めていければ非常にありがたく、それをもとに動き出したいと思います。これまでの議論に出た材料をもとに取捨選択はさせていただくが、盛り込んで作ったものを皆様にまたお諮りしてよろしければ、中間答申という格好でいただきたいと思います。
委員	具体的にどなたがこの答申を書いていく責任になりますでしょうか。
委員長	私になると思います。
委員	経験的に申し上げますと、いくつかそうした役割をしてきましたが、普通は官僚の皆様が文書を作るが、個人的にはストーリーを作ることを重視しないとカタログになってしまいます。それをどこに向けてストーリー展開をしていくものになるので、ある意味音楽を作る編集作業のようなものになります。それは色々な意見をまとめてストーリー展開していくような仕事になるかと思います。それは結構時間もかかるし、力仕事ということを最初から認識していかなければならないと思います。最終的にどのようなものを作るのかという合意がないと出来ません。本当は逆のパターンでこういうものをやりたいからこうしていくということがあると思いますが、こういう意見が出たので、あたかも上からこういう目標があってこうやるというふうに作り込まないといけないので、それが簡単ではないです。皆様のやられる分の仕事プラス委員長が責任を負うということでそういう認識が必要だと思います。
委員長	事務局と相談しながら、それぞれの委員の共通認識としてはこの学校をやめたいというのではなく、残して良い学校にして、そのためにはどうするかということだと思います。テレビで芦屋市長が、学校が良くなると町が良くなるということをおっしゃっていました。大月短大が良くなると大月市が良くなるという気概を持って、皆様の意見をまとめたいと思います。委員が言うように潰れそうです。というキャッチフレーズも良いと思います。ラッピングをどうしていくか、ラッピングは今にでも出来ることです。正しいことを正しく正確に伝える方法はどうなのかということをご意見いただ

	きました。市長も実際に学校に行って話をしてみるというお話もありました。最終的な答申は委員長を引き受けている以上、当然市長に渡さなければならないが、中身については私一人では出来きらないものですので、各委員に事前にお見通しを願いながらご意見をいただければと思います。出来るだけ誰が読んでもわかるようなストーリー性を担保されるということをイメージしながら最終的にまとめていきたいと思います。
事務局	前回1月では予算の反映の関係もあり遅いのではないかという趣旨のご意見をいただき、11月に5回目を行い、結論を出せばいいというスケジュールを組ませていただきました。一応そこが最終答申という目標にさせていただいて、今日出させていただいた案はこれまでの確認として、今日いただいた意見を事務局でまとめて最終を11月にするという目標でどうでしょうか。
小林市長	今日始まる前に委員長とお話させていただいて、答申をいただいて、骨子となる部分だけでもいいので、動き出せるものだけでも動き出して、そこから肉付けをしていくことはいくらでも出来るので、最終答申を待っているのではなく、ここはすぐにでも動き出すというところだけでもいただければと思います。
事務局	中間答申は正式な形に整える必要はなくて、これを持って最終を整えればいいと思いますので、中間答申として今日までの分を取りまとめさせていただいて、可及的速やかに行えるものは取り組むというご意見の中で最終答申をまとめたいと思います。
小林市長	中間答申ではすぐに取り組むものを二パターン程度作っていただきたいです。
事務局	承知しました。そのような取り組みをさせていただきます。また、本日中間答申案とディスカッションをしていただいて、スケジュール的には来月開催する予定ではありますが、1ヵ月のうちに新しいこと出るかというところもあるので、一回事務局で中間答申をまとめてメールで配布して見ていただく作業をしていくなかで、次回を一回飛ばすというのはいかがでしょうか。
委員	反対です。集中審議する必要性があって、具体的にどのように実行に移していくのかというものを書かないと、市長がおっしゃったように今これをするというものが出てこないです。ちぐはぐになってはいけないし、誰が決めるのかということも決まっていない中で、やれることはやるという、議題がないのではなくて、骨子はこれでいいとしても詰めきれていないのです。毎日現場に行ってこのようなことをやっていますが、改善すべきことはすぐにでもやっていくわけです。実際に11月に出来たとしても、生かされるのは次々年度になると思われます。その間に潰れてしまう可能性もあ

	るわけで、実際のスピード感はこのペースではいけないと思います。時間があれば来週にでもやるくらいのペースでないと進まないような気がします。
事務局	承知いたしました。一旦スケジュールどおりに行わせていただきます。これを個別具体的に進めるもの進めないものを協議させていただくなかで、メールでのやりとりも出てくると思いますが、そういったことを少し集中審議的にしていきたいと思います。
委員長	基本問題審議会で今どんな議論をしているのかという話があれば、当初予定していた令和8年早々の答申という形ではありましたが、この件については、スピード感も含めて問題をどうしていくかという各委員含めた議論を行ってきました。逆に言うと前倒しできるものはやっていきたいというスタンスの方が、市民に対して説明がしやすいのかと思います。最後総花的にまとめて、大月市の名前を変えただけで他にも通じるような答申にならないように、学校経営者もいるなかで、大月短期大学をいい学校にしていきたいということで、できることは急いでやっていきたいというのは、学校を良くしたいという熱い思いが裏側にあるということで、事務局も大変だと思いますが、よろしくお願いします。
事務局	先出しをさせていただきますが、例えば独法化をした場合に、市長も誰にしたらいいのか、どのように運営したらいいのかという悩みがあります。また、短大の魅力化を行うなかで、外国人の話も出ていますが、長らく短大の歴史のなかで編入学というものを売りにしてきています。それが一つの魅力であると委員にもおっしゃっていただきました。ただ一方で編入学というと何かをやるときに、編入学を売りにするとダブルスタンダードになってしまうのではないかと思うところがございます。何か一点突破で例えばITやAIをやるときに、編入学もやってAIもするのかという議論になるのではないかという課題を持っています。色んなことをやって集めて一点突破するのかという議論を市長と話す中でありました。もしよろしければそういったことに対してもご意見いただきたいと思います。学校の細かいことはわかりませんが、編入学は編入するための先生のコマを設けなければならないので、幅広く授業を用意するのでコスト的には少しかかると思っています。逆に一点突破するなら狭められるのかと単純に思っています。そういったところにご意見をいただければと思います。メール等々でもよろしいですので、お願いいたします。
委員長	もしそういうことであれば、例えば中間答申(案)もストーリー性を持たすとの話があり、順番の話がありましたが、そこも含めて肉付けをしていく中で、独法化や編入学について課題認識があれば併せてそこで言っていた

	だいて、事務局が思っていることをいければ、さらにいいラッピングが出来るのではないかと思います。
委員	すぐにでも出来ることはすぐにというお話がある中で、委員が言っていてラッピングという話は共感いたしましたが、おそらく Instagram や Tiktok をプロに頼むとしたらもちろんお金がかかってきます。しかし、今ここに書いてある中で一番すぐに始められるのはSNSでの宣伝や高校訪問を行えばそれが、来年の受験生の増加に繋がってくると思います。そこを明日以降すぐに取り組んでいくということを決めていただくということではないかなと思います。留学生やAIの話も大事なことでありますが、すごくお金がかかることでもあるので、まずすぐ動くのであれば、見させていただいたマスクをした動画が今の時代に合わない感じがするので、お金がかかるかもしれませんが、作り直しを行うことやストーリー性を出していく。ストーリー性を持ったものをすぐ作って、泥臭く高校訪問を行っていくことが大事だと思いました。
委員長	ありがとうございました。
事務局	動画についてはご指摘をいただきまして、現行の予算範囲で出来る編集を行っています。 高校訪問については、先生、職員を含めて今回しているところでございます。先日 1 泊二日で静岡に行った職員が飛び入りも含めて30校回ったとの報告を受けています。地道に訪問を行って昨年以上に回っている状況です。
委員長	フリーディスカッションということで市長にも出席していただいて各委員の熱い思いを感じられたと思いますので、ぜひよろしく願いたいと思います。

(2)その他

・なし

以上、議事終了

3. 閉会